

〔第38回〕

# NCGG-RI 研究発表会

National Center for Geriatrics and Gerontology, Research Institute

## 骨格筋構成細胞の維持制御と 骨格筋老化との関連性

再生再建医学研究部 細胞再生研究室

細山 徹 室長

2019年3月12日(火) 16時00分～

第1研究棟2階大会議室

超高齢社会に突入した我が国において、サルコペニアに対する予防法や治療法の開発は喫緊の課題である。しかし、臨床からの概念であるサルコペニアについては、加齢に伴って生じる筋量・筋力の低下といった現象論が先んじており、その発症や増悪のメカニズムに対する分子・細胞レベルでの理解は遅れている。一方、近年の報告では、例えば加齢に伴う骨格筋幹細胞やFAPs(Fibro-Adipogenic Progenitors)における質的・量的な変化の可能性が示されており、骨格筋を構成する個々の細胞種の加齢による性質変化がサルコペニアと何らかの関連性を持つと推察されている。

我々は、サルコペニアの細胞レベルでの包括的な理解を目指し、骨格筋の主要な構成細胞である筋線維、筋芽細胞、骨格筋幹細胞およびFAPsの成体骨格筋における維持制御機構とその加齢性変化に着目した研究を展開している。本セミナーでは、骨格筋幹細胞の維持制御機構に関する研究プロジェクトの進捗状況を紹介するとともに、同時に進めている筋線維やFAPsの維持制御に関するプロジェクトの成果の一部を報告する。

座長：渡辺 研

連絡先：副所長室(内線5002)